

くまざさ

新しい百年へ次の一歩

惜しくも甲子園のがす

釧路湖陵高校野球部は、第91回選抜高等学校野球大会(センバツ)の21世紀枠北海道候補に選ばれましたが、惜しくも甲子園初出場はかきませんでした。しかし、昨年の全道大会では61年ぶりのベスト4に勝ち上がり、湖陵健児の強さを見せてくれました。野球部(小田聖人監督)の戦いぶりを振り返ってみました。

釧湖初の21世紀枠候補

来春のセンバツ 釧根から通算5度目



21世紀枠候補に選ばれ、雪深いグラウンドで喜び合う湖陵の選手たち

第91回選抜高等学校野球大会(来春3月12日から14日、甲子園球場)の「21世紀枠」候補校が14日発表され、釧路湖陵が北海道地区候補に選ばれた。10年の武修館以来、通算5度目、湖陵は初めて、来月10日の選手委員会での候補校9校から3校が選ばれる。釧根の選抜大会出場は1969年の釧路第一までさかのぼり、夏を通じて初出場となる湖陵は選ばれれば、半世紀ぶりの快挙となる。

センバツ21世紀道代表決定を伝える釧路新聞(2018年12月15日付)

野球部21世紀枠道代表に

決勝戦は釧路、根室管内で唯一の私立校で、甲子園出場も経験したことのある武修館。湖陵は2回表に1点を先制すると、6回表にも5番更科夕稀選手(2年)の三塁打などで一挙に4点を奪い、試合を優位に進めました。投げては森下亮輔(2年)、更科、両投手の継投がずばりと決まり、5対0で零封。全道大会への切符を手に入れました。

続く第71回秋季北海道高校野球大会が30日から札幌市の円山球場と麻生球場で行われました。全道10支部から20校が参加し、釧根支部からは、Aプロックの優勝校、工業(7年ぶり13回目)とBプロック優勝の湖陵(9年ぶり14回目)が出場しました。

開会式の選手宣誓は湖陵の齋藤叡佑主将。北海道胆振東部地震(9月6日発生)に触れ「野球ができる喜びに感謝し、被災された方々に勇気と元気を届け、野球という素晴らしいスポーツを100年後の子供たちへ届けるために全力でプレーする」と

湖陵は1回戦で江南と対戦しました。先攻の江南が1回表に4安打を集中し、3点を先制しました。しかし、湖陵は2回裏に2点を返し、その後は両チームとも1点ずつ追加する緊迫した試合になりました。しかし湖陵は7回裏に2死からチャンスをつくり6番古川敢太選手(2年)が同点打を打ち、

その後相手のスキをついて逆転し、5対4で勝利しました。準決勝の対戦相手は明輝。湖陵は3回表に2点を先取したものの、明輝が4回裏に2点、6回に1点を追加し、逆転しました。しかし湖陵は直後の7回表に2死3塁から4番古川選手が3塁打を打ち同点、相手投手が次打者に暴投して逆転しました。9回にも2点追加し、6対3で勝利、決勝に駒を進めました。

と齋藤主将は宣言しました。湖陵は大会3日目の10月2日、麻生球場で2回戦から登場しました。対戦相手は札幌英藍高校です。湖陵は1回表、1死満塁から6番鹿野凌平選手(2年)が

目次

センバツと母校	2頁	同窓会総会	6頁
韓国の生徒と交流	3頁	学園だより	7頁
誠愛勇から23期	4・5頁	同窓生だより	8頁
教職員湖陵会研修会	5頁	編集後記	8頁

釧路湖陵 61年ぶり4強

第71回 全道高校野球 秋季大会

稚内大谷に10-0



【釧路湖陵】 釧路湖陵高校野球部。この日は、釧路湖陵高校野球部が、釧路湖陵高校野球部と対戦した。

鹿野好投、更科2ラン

◆試合結果 釧路湖陵 10-0 稚内大谷
 ◆投手 鹿野 4回、更科 2回
 ◆打者 更科 2回、鹿野 2回
 ◆守備 鹿野 2回、更科 2回
 ◆審判 鹿野 2回、更科 2回

脱力スイングで結果

○本日は、釧路湖陵高校野球部が、全道大会ベスト4を伝える釧路新聞(2018年10月5日付)に掲載された。この日は、釧路湖陵高校野球部が、稚内大谷高校野球部と対戦した。この試合は、釧路湖陵が10対0で勝利した。この試合は、釧路湖陵の投手鹿野が4回を投げ、10本の安打を奪った。また、更科が2回を打ち、2本の2ランを打った。この試合は、釧路湖陵の投手鹿野が4回を投げ、10本の安打を奪った。また、更科が2回を打ち、2本の2ランを打った。

全道大会ベスト4を伝える釧路新聞 (2018年10月5日付)

内野安打で先制、この回4回を奪う好スタートを切りました。しかしその後、両チーム合わせて29安打を放つ乱打戦になりました。5対6と逆転された4回表、湖陵は9番森下選手(2年)の中前打で同点、3番堀海人選手(2年)、4番古川選手の適時打などで、この回一挙に6点を奪い、逆転しました。後半、2点差まで追い上げられましたが、リリーフした更科投手が冷静なピッチングをして後続を抑え、14対12で接戦を制し、30年ぶりに初戦突破を果たしました。

安打となる13安打を放ち、10対0(6回コールド)で圧勝し、61年ぶりのベスト4を決めました。準決勝は円山球場で6日に行われました。相手は札幌第一。湖陵は1回表にチャンス点を結びつけられませんでした。その裏札幌第一は2点、さらに2回に1点、5回に2点を奪われる苦しい展開になりました。そこで意地を見せたのは4番古川選手。6回先頭の古川選手は初球を左翼スタンドに放り込み、1点を返しました。この日は打線が相手投手に3安打に抑えられ、

打者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	合計
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0



種市校長

甲子園と母校

札幌大谷高等学校 校長 種市 政己(湖陵28期)

1968年に釧路第一以来の釧路支部からの決勝進出とはなりません。1月25日、日本高校野球連盟が発表した21世紀枠には、残念ながら釧路湖陵の名前は入っていません。甲子園初出場はかないませんでした。なお、センバツの北海道代表(一般選考)は秋の全道大会で優勝した札幌大谷(種市政己校長・湖陵28期)、準優勝の札幌第一が選ばれ、釧路湖陵は札幌第一の補欠校でした。惜しくもセンバツには選ばれなかったものの、釧路湖陵野球部の選手たちは、「甲子園は実力いくもの」と夏の大会に向けて課題克服にいつそう力が入っています。

札幌大谷高等学校野球部は、昨年の第71回秋季北海道高等学校野球大会(新人戦)の優勝と明治維新百五十年記念第49回明治神宮野球大会での全国優勝を成し遂げ、甲子園出場の切符を手にすることができました。

札幌大谷高等学校野球部は創部10年になります。中高一貫の硬式野球部を基幹としたチーム作りをしてきました。創部以来、甲子園を目指して日々練習をしてきた先輩方の努力や伝統の積み重ねがあったからこそその甲子園出場だと思えます。

札幌大谷の野球は、派手さはありませんが、キャッチボール、守備、守備連携、バッティング、バント、挨拶、声出し等、基礎をし

っかりと鍛えた、誠実で泥臭い野球であると思います。高校生らしいですががささと先輩、同僚、後輩、指導者との目に見えない信頼と絆、そして何より日常の学校生活における誠実な学習姿勢がこの度の甲子園出場につながったものと思います。様々な人々や目に見えない力に支えられていることに感謝しつつ、札幌大谷野球部らしく挑戦者としてのびのびとプレーしてほしいと願っています。

さて、昨年10月の秋季大会では決勝戦で母校釧路湖陵高校と戦えることを楽しみにしておりましたが、願いは叶えられませんでした。釧路湖陵の選手諸君はとてもはつらつとしており、全員がフルスイングの力強いバッティングを

しておりました。私も湖陵応援団の席で、母校の応援をしておりました。思い返すと、私が3年の夏の大会の時も北大大会に出場し、甲子園へ今一步のところで敗退してしまいました。ラジオを聴きながら応援していたことを思い出します。当時の野球部の仲間、それは仲良く、とても楽しげであったことが記憶に残っております。

釧路湖陵時代はパステルカラーの風景画でした。青春期の不安定で曖昧な日々が、坂の多い釧路の美しい風景と秋の澄み切った夕焼けの色彩の中に取り込まれてしまふ。初恋、別離、熱狂的な集中、激しく燃え上がるエネルギー。今思えば本当に「若かった」。人生の折り返し地点をとうに過ぎた今、それでも湖陵時代の友人たちや先輩後輩たちと合うと、あの時代のアンニュイな思いと懐かしさ、そして心の底からこみ上げる優しさを

感じます。釧路湖陵は本当にいい学校だった。改めてそう思います。

文化の違いを理解

外国語部

湖陵高校外国語部(林智子顧問)は、昨年11月4日から10日まで韓国を訪れ、地元の高校生と交流を深めました。外務省は日本をもっと理解してもらおうと「対日理解促進交流プログラム(JENESYS2018)」を実施しており、これに応募して同部から12人が参加しました。

生徒たちは、北海道内の他の高校生や韓国人の大学生とともに、韓国の文化、歴史関係の施設見学や体験のほか、高校や大学訪問、ホームステイも経験しました。参加した生徒の中から部長の須藤千歌さん(2年)、副部長の海野七星さん(同)、そして山上彩夏さん(同)にお話を聞きました。

訪韓2日目、11月6日に河南高校(河南省)を訪問しました。まず歓迎会



釧路を紹介する生徒たち(外国語部提供)

が行われました。SNSを含めてさまざまな事前情報をもとに、緊張感あふれる雰囲気を持っていたのですが、「予想以上に盛大で、驚きました」と須藤さん。釧路のことを知ってもらおうと観光名所や食文化な

どを紹介したところ、「和商市場の勝手井に歓声があがり、夕日には歓声が上がりました。リアクションがとてもよかったですね。同じ高校生ですが、日本との文化の違いをまぶ感じました」と須藤さんは話します。

海野さんは、K-POPに興味があり、小学校高学年から韓国が大好きになりました。韓国ドラマを見るなどして語学を勉強し、これまで2回韓国を訪れていました。しかし、高校生と直接交流するのは初めてで、「遊びと勉強の区別をはっきりつけているように感じられました」との印象を持ちました。

ホームステイで山上さんは、1人で生徒会長の自宅に1泊しました。「コミュニケーションは、韓国語や英語、日本

韓国の高校生と交流 한국의 고교생과 교류



韓国の生徒たちと記念撮影(同)

語を交えて」だったそうで、夜には本場の韓国料理を味わいました。「少し辛かったけど、おいしかった」とうれしそうでした。

さて、河南高校では授業も体験しました。須藤さんは物理、海野さんは数学、山上さんは生物化学。授業で驚いたことは、「お菓子を食べた

り、友達同士でおしゃべりをしたりで、日本でいうと『学級崩壊』のようでした」と3人は笑っていました。しかし、生徒と先生の関係はとても近く、「友達感覚のようです」と言います。それは日本からの生徒が来ていたので、自由にさせていたのかもしれないが、生徒と先生の信頼関係があつてのことだと思えました。

最後に、今後の目標を聞いてみました。須藤さんは昨年、イギリスを訪問しました。「今度は南アメリカや教育に熱心なフィンランドなど北欧にも行ってみたいですね」。海野さんは「韓国のことをもっと知りたい」とさらに極めたいようです。山上さんは「千と千尋の神隠し」で有名になった台湾、さらにシンガポールも」と目を輝かせていました。

今回の訪韓を通じて、日本に伝わってくる韓国の情報はごく一部で、本当の姿は実際に訪れないとわからないというところ、生徒たちは理解したのではないのでしょうか。日本と韓国が「素直な情報発信」をしていくことが大切で、これから日韓の生徒たちがその役割を果たしていくことに期待しましょう。

(湖陵30期 星 匠)



韓国の民族衣装チマチョゴリを身に付けて(同)

どこから来て どこへ行くのか

湖陵23期 菊池 美恵子

自由が誇らしい

「ひいーずるくーにの ほーくすいにー」
まだ薄暗い台所の方から歌が聞こえてく
る。
あー、またおばあちゃんだ。



懐かしのジェンカ (2018年9月の同期会)

私の祖父は神社の神主であるが、釧中の教員も兼ねてやっていそうである。その祖父は、私が生まれた時はすでに身罷^まっていたが、祖母はよくこの校歌を口ずさみながら台所仕事をしていた。戦後早くに夫を亡くし、まだ若い一人息子を一人前にしなくては、と思いつつ、夫が勤めていた学校の校歌を口ずさむことによって、祖父から力をもらい日々苦闘をしていたのだろう。

さて、私たちが湖陵生だったのは半世紀前になる。なんとも自然とため息が出てしまう年月である。当時他校では規制されているような事が、湖陵生は自由であったように思う。それは自分たちが教師から、また世間から信頼されているからに他ならない。それが誇らしく特別感を味わったものだが、最近はどうだろうか。もし「シバリ」がきつくなっているのなら残念である。学力がどうか、という以上に残念である。

大々的に還暦同期会

同窓会当番期紹介ということで23期のことを書かせてもらってから二十数年たつ。毎年同期会を開催しているが、その間富士

見校舎のお別れ会での出店、打ち上げ。備品のセリもあった。南北戦争時代の軍服ま

がいの衣装を身につけての伝説?の先輩、丹葉節郎氏の小芝居

(失礼)も懐かしい。もちろん還暦祝い、創立百周年記念同期会も

大々的に繰り広げた。八十数名の参加である。肅々と還暦神事斎行のお・も・て・な・

し。卒業アルバムから写真を抜き出し大きくカードにして一人一人胸前に下げなが

ら(誰か、が認識できるように)賑々しく歓談し、翌日はいくつかの市内ツアーを企画

した。そのツアーで大切な仲間を失ったのは、大きな衝撃と悲しみ

だった。彼の葬儀の弔辞の中で、私は彼への想いを込めた歌を参

列の同期と共に歌っ

た。



還暦同期会に参加した23期生 (2012年9月29日 釧路キャッスルホテル)

た。場違いな弔辞だったかもしれないが、言葉にならない胸つぶれる想いを歌に託した。そして今日(2月11日)、まさに同期会副会長である進藤崇氏が鬼籍に入る。私副会长なのはまあ、(厳島)神社は「めでたい」イメージだからで、いずれは次々とお世話になるのは寺だから、聞名寺の息子が後半は会長になるといいだろう、というのが暗黙の流れであった。

ルーツを求めて

昔、「ルーツ」というテレビ番組があり、自分のルーツを探る「ハヤリ」があった。私たちは日本人として生まれ、ほとんどの人が仏教徒だけど、仏教がなんたるかを知らない。今度同期を前に講演してヨ、という話に快諾していたのだが、それはもう叶わぬ。

同期の写真家、長倉洋海氏の写真展開催準備に多くの同期の仲間がおっとり刀で駆けつけ手伝った楽しい思い出もある。「私たちがどこから来てどこへ行くのか」

彼の写真展のテーマの一つにこれがあつたように思う。開拓移民の子孫である私たちは、これから自由な時間の中で、ルーツを求めて旅する者も多いだろう。そこ



下げているのは卒業時の写真(同)

に何があるか、知らない。長倉氏の写真の中にアマゾンの老人の顔を写している作品がある。その写真のキャプションにあった「死は怖くない。死んでも皆が集い、このヘソの緒が埋まっている広場で祭りをして(私を想って)くれるから」といった言葉を進藤氏と先に逝った同期に捧げよう。そして同窓生にも。

釧路教職員湖陵会研修会

30期加賀谷氏ゲストに



教職員湖陵会で講演する加賀谷園長

釧路教職員湖陵会(小向聡会長・湖陵29期)の研修会と懇親会が、昨年11月10日に釧路市内のアクアベールで開催されました。講師に(株)太平洋シルバースーパースタッフ北海道シルバースタッフときわ台ヒルズ取締役の加賀谷功取締役園長(湖陵30期)を迎え、「高齢者のくらしと地域社会」という演題でのお話をしていただきました。

現在、ときわ台ヒルズは開設11年目となり、60名の定員、平均年齢88・7歳で、3〜4カ月待ちの状況だといえます。印象的だったのは、園のモットーとして「高齢者に優しい街」になるといふこと、そのために「地域包括ケア成功のカギはヒトにある」と加賀谷園長は話しました。続けて「それは、目配り、気配り、心配り、手配りであり、笑顔で正面から向き合い、語りかけること、やさしく触れて支えること、寝たきりにしないこと、そしてその人の人間としての尊厳を重んじることである」と力説していました。

さまざまなることを考えさせられた講演となりました。

また、その後の懇親会は、来賓に同窓会の川向貴子副会長(同29期)を迎え、たいへん和やかに行われました。

奥田泰朗(湖陵25期)

懐かしい顔が集合

釧中・釧路湖陵同窓会総会が昨年8月11日、釧路市内の釧路センチュリーキャッスルホテルで開かれ、同窓生約500人が参加しました。

総会では校歌を歌い、物故者へ黙とうをささげたあと、島本幸一会長（湖陵19期）は「全国各地から集まった同窓生のみなさん、今日は楽しく過ごしてください」とあいさつしました。続いて、同窓生でもある西堀隆亮校長（同30期）が「卒業から40年ぶりに母校に戻り、湖陵生が主体性、創造性を持っていることを再認識しました」、蝦名大也釧路市長（同29期）は「少子化が進む中で、釧路、根室地域で湖陵高校の役割は大きい」と祝辞を述べました。議事では平成29年度の事業、決算

報告などが承認されたほか、役員改選では島本会長以下、全員の留任を決めました。

在校生の発表会では、合唱部、器楽部、チアリーディング部、応援団が日ごろの練習の成果を披露しました。その中で、チアリーディング部は、同窓会が支援した湖陵カラーの赤を基調とした新しいユニフォームを同総会で初披露しました。

このあと懇親会に移り、当番幹事の杉村莊平代表（同36期）が「平成最後の同窓会を楽しんでください」とあいさつ、東京湖陵会の諏訪幹雄会長（同23期）、札幌湖陵会の稲村尊史会長（同26期）、関西湖陵会の小川清至会長（同17期）が乾杯の発声をして始まりました。なお、次期幹事は37、47、57期です。



美しいハーモニーを響かせた合唱部



たくさんのお窓生が集まった同窓会総会・懇親会



迫力ある演奏を披露した器楽部



華麗な演技で魅了したチアリーディング部



力強いエールを送った応援団



東京支部の旗を同窓会に寄贈

東京支部の旗を寄贈

〇：同窓会総会の中で、東京湖陵会の諏訪会長から西堀校長に「釧路湖陵同窓会東京支部」の旗が寄贈されました。同湖陵会は、1971年に在京釧中会として発足、90年に東京支部2006年に現在の名称になりました。諏訪会長は「これまで先輩たちがつくり上げてきた重みを、生徒にも感じてほしい」と話していました。

星 匠（湖陵30期）

湖陵高校での1年間を振り返って、主な出来事をお伝えします。同窓生の皆様に母校の様子を知っていただければ幸いです。

2018年

〈3月〉第70回卒業式(1日)

235名の生徒が湖陵生としての誇りと夢を抱いて学舎を巣立ちました。そしてこの瞬間、われわれ同窓会の仲間入りです。

高校入試(6日)

例年と変わらず普通科5間口、理数科1間口の募集です。理数科では推薦入試も行われています。今年も多くの中学生が湖陵高校入学を目指して受験しました。

大学合格発表

3年間の学習の成果が実り、多くの生徒が合格を勝ち取りました。本校生徒の多くが希望する国立大学には現役で101名が合格しました。医学部医学科、そして京都大学や大阪大学などの超難関校にも合格者が出ています。昨年に引き続き素晴らしい結果で

す。浪人生も頑張りをを見せてくれました。

教職員異動

10名の教職員が異動されました。転出された皆さんには在籍期間の長短はあるものの、それぞれが湖陵高校のために大きな力を尽くしていただきました。本当にどうもありがとうございました。

〈4月〉教職員異動

西堀校長を始め10名の教職員が着任されました。どうぞよろしくお祈りします。

平成30年度入学式(9日)

240名の新入生が夢と希望を持って湖陵高校に入学しました。湖陵高校で多くのことを学び、社会へと羽ばたいてくれることを期待します。

宿泊研修(18〜20日)

1年生全員で研修に出かけました。場所は川湯第一ホテル忍冬です。高校での学習方法について学んだり、ピアサポート研修で交流を深めたり、クラス単位で校歌練習をしました。湖陵73期生の本格的な高校生活がスタートです。

湖陵の日(28日)

PTA総会と授業参観、進路講

演や学級懇談などを併せて毎年4月の土曜日に行われています。夜はキャッスルホテルに会場を移して、懇親会が開かれました。教職員と保護者で合計79名が参加して、懇親を深めました。

〈5月〉教育実習

今年2名の卒業生が大学を離れて現場での実習を経験しました。生徒にとっては年齢の近い先輩であり、新鮮な気持ちで授業に取り組めたようです。

高体連・高野連釧路支部予選

3年生にとっては最後の大会で、みんな全力で戦ってきました。多くの運動部が団体または個人で全道大会出場を果たしています。野球の支部予選は2年ぶりに釧路市民球場で行われました。日曜日の試合には、器楽部・応援団・チアリーダーなどを含め多くの生徒や教員が応援にかけつけました。

〈6月〉高体連等全道大会

放送(朗読部門3名)・山岳(女子団体)が全国大会への出場を果たしました。山岳部の全国大会出場は昨年の男子に続いて2年連続です。惜しくも全国出場は逃しましたが、男子団体も全道準優勝を果たしています。その他にも合唱

部の高文連全道大会優秀賞や、陸上部の男子競歩3位、弓道部では男子個人で4位入賞など好成績を残しています。

〈7月〉湖陵祭(13〜15日)

行灯行列やクラス対抗の歌合戦、3年生によるクラス演劇など、湖陵祭の伝統は引き継がれています。特に行灯行列では同窓生の皆様を始め、多くの市民の方々に応援していただきました。本当にどうもありがとうございました。

〈8月〉第16回統一学校説明会(24日)

本校体育館を会場にして行われる湖陵高校進路指導の最大のイベントです。道内外から80近くの大・短大・予備校等の事業所などが参加して行われました。生徒たちは各大学のブースに積極的に足を運び、熱心にお話を聞いたり質問していました。一つの高校が主催して多くの大学に参加していただくというスタイルは最近でこそ他校でも見かけるようになりましたが、実は湖陵高校が最も長い歴史を持つのです。

〈9月〉新人戦・高文連

多くの部活動が素晴らしい成績を収めました。野球部は秋季大会で全道ベスト4まで勝ち残りまし

た。その結果、全国高校野球選抜大会21世紀枠北海道地区候補校に選出されました。また文芸部の生徒も見事に全国大会(東日本大会)の出場権を手に入れました。

〈10月〉見学旅行(第1団13〜17日・第2団14〜18日)

10月13日から2年生が2班に分かれて見学旅行に出かけました。京都、奈良、そして東京への4泊5日の旅行でした。行く先々で普段は目にするのではない日本文化に触れ、多くのことを吸収できる有意義な旅行になりました。

2019年

〈1月〉センター試験

223名の生徒が北海道教育大学釧路校と釧路公立大学に分かれて受験しました。受験率は約93%です。多くの先生方が寒い中、両会場まで激励にかけつけました。

以上で1年間の報告とさせていただきます。今後とも母校と後輩たちのために、どうぞよろしくお祈りいたします。

田中嘉寛(湖陵36期)

傘寿を祝いクラス会 湖陵9期3年C組



湖陵9期(1957年卒)3年C組のクラス会が、昨年10月4日から2泊3日の日程で釧路管内鶴居村の「グリーンパークつるい」で行われました。同会には、釧路から6人、札幌から5人、帯広から1人、本州からは鎌倉から1人の合計13人が参加しました。

傘寿を祝い行われた9期3年C組クラス会に参加したみなさん

9期は、入学する前年53年に火災により校舎が焼失し、入学後しばらく体育館を仕切って授業をしていました。懇親会などでは、学生時代の思い出や近況などを語り合い、親睦をいっそう深めました。

クラス会2日目の5日は、センバツにつながる第71回秋季北海道高校野球大会準々決勝で、釧路湖陵が稚内大谷に勝利した日。最近では校歌を歌う機会がめっきり少なくなりましたが、この日はベスト4を決めたことを喜び、出席者全員で校歌を歌いました。幹事代表の荒井暢夫さんは「しばらく校歌を歌っていませんでしたが、みなさんちゃんと歌えました」と話していました。

なお、今年は札幌地域で開催を予定しているそうです。

星 匠(湖陵30期)

50人参加 旧交温める 湖陵25期



湖陵25期の同窓会が昨年9月29日に釧路市内の釧路センチュリーキャッスルホテルで開かれ、約50人が参加しました。写真：今回の幹事学級はC組(平尾憲明代表)です。

この同期会は、40歳の際に行われた釧中・釧路湖陵同窓会に集まったことがきっかけで始まり、毎年開催されています。

それからA組からI組までずつと幹事クラスを回してきて、あつと言いつつ間にはほぼ2周りが過ぎてしまいました。さてこの後はどうなるのか、面白いところです。

奥田泰朗(湖陵25期)

編集後記

高校球児にとつての夢である「甲子園出場」。それは我々釧中・湖陵OBにとつても1世紀以上にわたる悲願でありました。そんな長年の悲願がほんの目前まで忍び寄ってきて、しかももう少しで手の届こうというところでスルリと再び遠くへ逃げてしまふ。今回の「春のセンバツ・21世紀枠」フィバーは、まさにそんな「儚い夢」を私たちに見せてくれました。全国から9校が選ばれた候補校に入った時には、多くのOBが我が事のように狂気乱舞し、「釧路からの応援団は500人ぐらい必要だよな」「どうやってこの大人数を甲子園まで送り込もうか」などと、まさに「獲らぬ狸の皮算用」そのもののような算段を、それはそれは嬉々として毎日のように論議していたほどでした。結果はご存知の通り、まさに「春の夜の夢」のように残念な結果となってしまいました。が、せめてもの救いに感じましたのは、誰よりも残念であったはずの野球部員諸君が、「残念には思いますが、それよりも今後の大会を勝ち進んで、実力で夏の甲子園を目指したいと思えます」と力強く発言していたことでした。そ

れは、「棚ぼた」の幸運に必死にしがみつこうとしていた己れの滑稽さを恥じ入りたくなる瞬間でもありました。その意気やまさに軒昂。この気概ある限り、彼らの情熱が果てることはないでしょうし、私たちに希望を与え続けてくれることでしょう。

西村貞広(湖陵30期)

※釧路湖陵同窓会のHP内でフェイスブックを始めましたので、ご参照ください。

釧路湖陵高校
〒085-0814
釧路市緑ヶ岡3丁目1番
TEL(0154)43-3131
ホームページ
<http://kushiro-koryo.hp.infoseek.co.jp/>

くまざさ編集委員会

- 同窓会会長 島本幸一(湖陵19期)
- 同窓会計長 佐藤文昭(湖陵22期)
- 編集委員長 星 匠(湖陵30期)
- 編集委員 堀川春昭(湖陵12期)
- 編集委員 奥田泰朗(湖陵25期)
- 編集委員 田中嘉寛(湖陵36期)
- 編集委員 西村貞広(湖陵30期)
- 編集委員 須貝喜治(湖陵49期)
- 編集事務局長 田巻恒利(湖陵18期)

くまざさ編集委員会

〒085-18650
釧路市黒金町713
TEL0154(22)1111
FAX0154(22)0050
釧路新聞社内 星 匠